

『大日山 35 号墳出土の家形埴輪』

<発表要旨>

特別史跡岩橋千塚（いわせせんづか）古墳群の保存整備事業に伴い、平成 15～17 年度に発掘調査した大日山 35 号墳から出土した高さ 130cm を超える家形埴輪の復元作業が完了しました。県内最大の大きさで、全国でも 5 指に入る高さの家形埴輪です。大王墓と考えられている今城塚古墳（大阪府高槻市）の家形埴輪と類似する方法で製作されています。この家形埴輪を下記のとおり、特別展において展示します。

<家形埴輪の特徴>

- ①復元できた高さは 130cm ですが、最下部と屋根の上部が欠損するため、本来は高さ 140～150cm 程度であったと推定できます。県内最大の家形埴輪で、全国で 5 指に入る高さと考えられます。（全国最大の家形埴輪は今城塚古墳の 170cm です。）
- ②上部の屋根・中央の屋根と壁・下部の円柱の 3 つに分割して製作しています（3 分割焼成）。円柱を持ち 3 分割で製作された大形の家形埴輪で全体が復元できたものは、今城塚古墳に次いで全国 2 箇所目になります。
- ③円柱を持つ高床式建物をモデルとしています。全国的に家形埴輪の柱は角柱で表現されたものが多く、円柱のものは珍しいもので、県内初例となります（全国で 10 数例確認できます）。

<家形埴輪の展示場所>

展示場所：和歌山県立紀伊風土記の丘 展示室

名 称：開館 40 周年記念特別展「大王の埴輪・紀氏の埴輪～今城塚と岩橋千塚～」

開催期間：平成 23 年 10 月 8 日（土）～12 月 11 日（日） 9:00～16:30

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日または休日の場合は次の平日）

入館料：一般 350 円 大学生 210 円 高校生以下、65 歳以上、障害者手帳等をお持ちの方及び県内在学の留学生・就学生は無料（要証明書）

*10 月 4 日（火）～10 月 7 日（金）まで展示準備のため臨時休館



【大日山 35 号墳について】岩橋千塚古墳群内に所在する墳長 86m（最下段の盾形の基壇を含めた全長 105m）の県内最大級の前方後円墳（6 世紀前半）で、平成 15～17 年度に発掘調査を実施しました。その結果、東西の造出（つくりだし）から多量の埴輪が出土し、継続して整理作業中です。整理作業が完了した埴輪から順次風土記の丘において展示しており、これまで、日本初例の「翼を広げた鳥形埴輪」や「両面人物埴輪」、「胡籥（ころく）形埴輪」など全国初例となる貴重な埴輪が確認されています。

【今城塚古墳について】大阪府高槻市に所在する墳長 190m（周溝・堤を含めた全長 354m）の前方後円墳で、6 世紀前半においては国内最大級の古墳で、真の継体天皇の陵墓と推定されています。古墳を取り囲む堤上で埴輪祭祀場が発見され、全国最大の家形埴輪をはじめ 200 体をこえる埴輪群が出土しています。

【家形埴輪について】家形埴輪は、首長居館などの中心建物と倉庫、住居、祭儀用建物などの付属施設がモデルとなっています。4 世紀中頃（古墳時代前期）に形象埴輪の中でも最も早く出現し、古墳時代を通じて製作されます。

家形埴輪の床構造は、大きく高床式と平屋式に分けられます。竪穴式建物を表現したものはほとんど確認されていません。屋根構造は、切妻造、寄棟造、入母屋造があり、ごく少数片流れ造があり、今回の家形埴輪は入母屋造です。柱の表現は角柱が多いが、円柱のものが全国で 10 数例確認されています。5 世紀中頃（古墳時代中期）には神社建築のように堅魚木を表現したものが出現し、6 世紀（古墳時代後期）には千木をもつ大形の家形埴輪も認められるようになります。

【岩橋千塚古墳群の家形埴輪】岩橋千塚古墳群では、大日山 35 号墳の他、大谷山 22 号墳、井辺八幡山古墳、大日山 43 号墳、花山 6 号墳、大谷山 4・5・6・17・20 号墳、井辺前山 26 号墳、寺内 18・63 号墳、万葉植物園内、知事塚（前山 B67 号墳）で家形埴輪が出土しています。このうち全体が復元できているものは大日山 35 号墳と井辺八幡山古墳の 2 個体だけで、大谷山 22 号墳は屋根部分が復元されています。

この他、和歌山県内では 15 例ほど家形埴輪が出土した古墳があります。

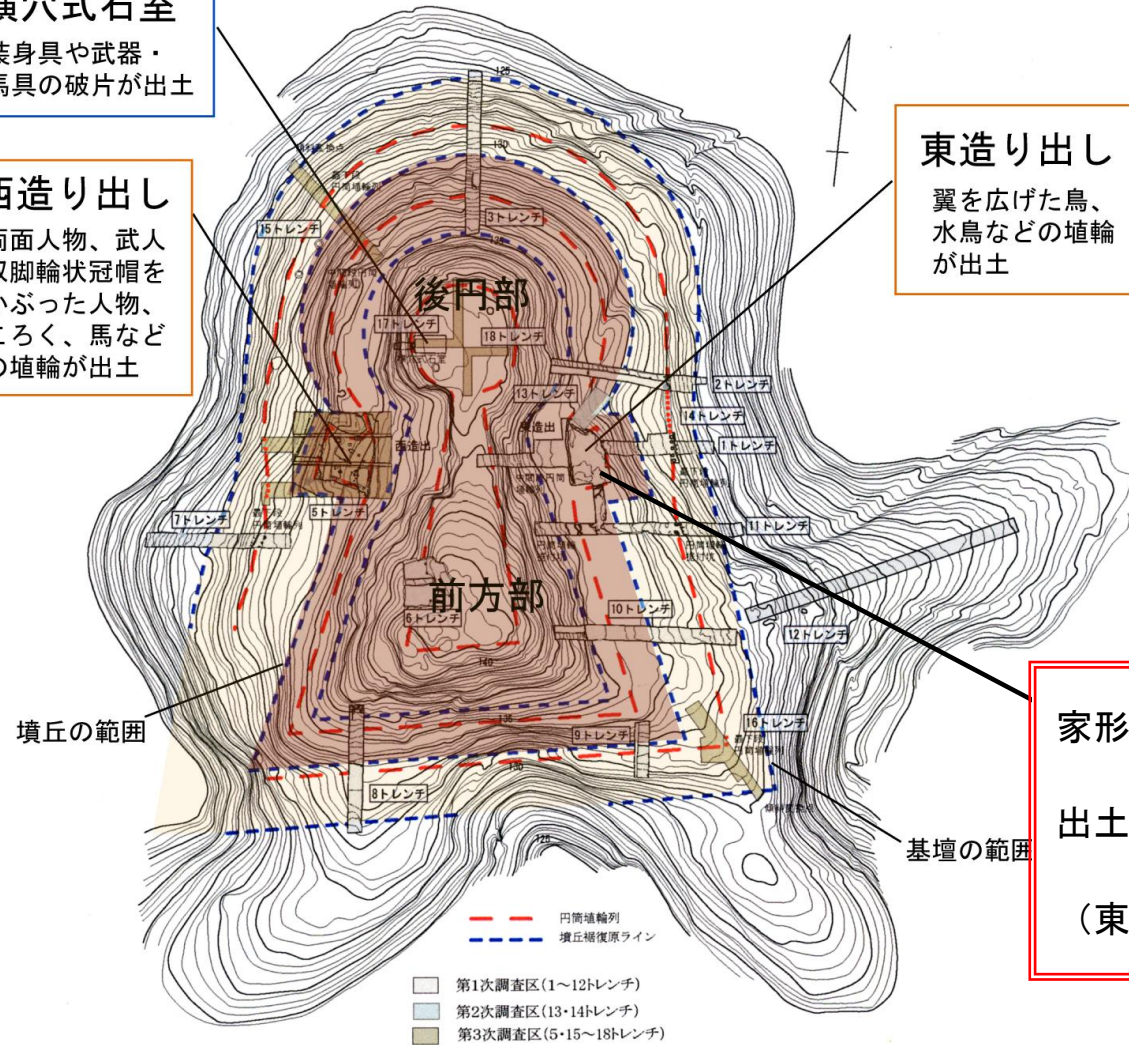
【家形埴輪の分割焼成】 入母屋造の上屋根と下屋根部以下を 2 分割して別々に焼成する分割焼成技法が 5 世紀後半（古墳中期後半）に出現し、6 世紀前半（古墳後期前半）には今城塚古墳出土のような 3 分割して焼成する大形の家形埴輪が製作されるようになります。今城塚古墳では高さ 170cm をはかる 3 分割成形で製作された円柱をもつ入母屋造の高床建物があり、規模こそ小さいが大日山 35 号墳でも 3 分割成形の同形態ものが認められます。3 分割成形で製作された家形埴輪で全容がわかるものの出土は全国で 2 箇所のみです。



横穴式石室
装身具や武器・馬具の破片が出土

西造り出し
両面人物、武人
双脚輪状冠帽をかぶった人物、
ころく、馬などの埴輪が出土

東造り出し
翼を広げた鳥、
水鳥などの埴輪
が出土



家形埴輪
出土地点
(東造出)

大日山35号墳 墳丘測量図・トレンチ配置図

破風板の上部は復元していません

千木 (ちぎ) が取りつくのか、破風板が丸くめぐるのか、検討中。

堅魚木 (かつおぎ)

破風板 (はふいた)

棟持ち柱 (むなもちばしら)
: 盾の文様が刻まれています。

壁

出入口
(8箇所)

円柱 (えんちゆう)
: 高床の柱 (9本)

入母屋造の屋根

上部 (上屋根)

中間部 (下屋根と身舎)

下部 (高床部)

3分割

大日山 35 号墳出土 3 分割焼成された入母屋造の高床の家形埴輪

